

「師匠」

琉球大学大学院 胸部心臓血管外科学（第二外科）
比嘉 章太郎（23期生）



南風を読まれている皆様、こんにちは。胸部心臓血管外科学講座（以下、第二外科）1年目の23期生・比嘉章太郎と申します。2010年12月号にも当講座の安藤先生より第二外科の魅力を紹介させて頂きましたが、今回も同窓会より講座紹介のチャンスを頂きましたので、

私なりに感じている魅力を語らせて頂きます。

第二外科は國吉幸男教授を中心に心臓・大血管の手術を行う3つの心臓チーム、動脈瘤に対するステント治療・静脈瘤や閉塞性動脈硬化症などを主に扱う血管チーム、肺腫瘍などを扱う呼吸器外科チーム、主に心臓疾患のある方の一般外科を扱う外科チームで構成されており、日々の日常診療に取り組んでおります。

私は卒後臨床研修を中頭病院で修了し、3年目の今年第二外科へ入局しました。学生の頃にポリクリでまわった時、第二外科の先生は忙しくて、怖いというイメージでした。確かに忙しくて、怖い（怒ったらね）。でもそれは一生懸命だからだと今ならわかります。心臓という摩訶不思議な魅力を持つ臓器、また一つ間違うと命を失うことにつ

ながってしまうものを扱っているだけに手を抜くことはできません。

私がまだ学生でポリクリを回っている時、外来で教授から「心臓を栄養している血管が詰まりかけている患者がいる、その人は命の危険に晒されている。だからおれは休みの日でも働くんだ。」と言われました。そして休日にも関わらず緊急手術があり、何故か私も手術見学をすることとなりました。もう夜も11時、手術は終盤となり止まっていた心臓が動き始めた頃、教授から手洗いをするよう言われました。先生に教えてもらいながら手洗いをし、ガウンを着た後、動いている心臓をさわらせてもらいました。その時の、温かく・力強く動いている心臓から生きていることのありがたさ、命の大切さを教わった気がします。

私は初期臨床研修を含め、師匠と呼べるたくさんの医師と出会いました。そして今、師匠と呼べる方々と一緒に働くことができてとても幸せです。

初期臨床研修真ただ中でこれからどうしようかと考えている皆さん、これから医師になる皆さん、あなたの描いている医師像とは？この人についていこうと思える尊敬できる師匠と出会えましたか。

